

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	51	—	事業名	文化の家事業	担当部課	くらし文化部文化の家
------	----	---	-----	--------	------	------------

基本情報	総合計画	基本方針	4	文化をみがき、人が輝くまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	4	文化・芸術に親しむ場と機会を充実する	款	9	教育費
		施策の進め方	1	文化芸術環境の発展	項	4	社会教育費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F1	「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	目	5	文化の家施設費
		政策分類	1	住民の力を生かした新しい役割分担の仕組みをつくる	大事業	3	文化の家事業
	その他（関係法令、要綱等）	文化芸術基本法(H29.6)、文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次)、劇場法H24.6)、長久手市第5次総合計画基本方針4「文化をみがき、人が輝くまち」(H24.1)、文化芸術マスタープラン(H30.3)ほか					
事業開始の背景、経緯等	長久手市は、歴史の中で培われ継承・発展してきた風土や伝統文化を持ち、周辺を含め大学が多数存在し、地域には学生や芸術家、専門家が多数在住している。このような地域の特性と市民一人ひとりの個性を活かしつつ、たくさんの人が協力して新たな魅力ある文化芸術の創造を図る。また、豊かな地域社会が織りなす質の高い生活空間を創出することによって、真に市民がゆとりと潤いに満ち、生き生きと暮らしている市を目指す。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 文化の家の事業や活動情報を収集・整理して市民へきめ細やかに情報を提供するとともに、自主創造活動等さまざまな取組を全国に発信するとともに、さまざまな文化情報の提供を図る。市民や芸術家等の自主的な活動に対し、活動場所を貸し出すとともに、活動特性を尊重した運営を行う。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民、近隣住民等					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) マスタープランに位置付けられた、情報事業及び活動空間提供事業により、当市における芸術文化の環境を整備する。また、劇場公演の有無にかかわらず、パブリックスペースを賑わいのある場所にしたい。					
	事業を構成する事務事業	① 文化の家事務事業	現状維持	④			
	② 文化の家管理事業	現状維持	⑤				
	③ 文化の家整備事業	改善・見直し	⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	予算		232,973	649,356	726,213	219,818
			決算		209,125	254,998	985,153	
	人件費(B)	千円	決算		46,125	48,938	51,935	
総コスト(A)+(B)	千円	決算		255,250	303,936	1,037,088		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A ガレリア活用日数	日	目標	—	—	—	20	25
			実績	—	—	—	25	
	B 月平均来場者数	人/月	目標	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
			実績	42,270	43,762	41,973	38,209	
	C 施設使用料等収入	円	目標	19,680,000	22,119,000	18,219,000	15,182,000	19,295,000
実績			21,863,860	20,241,870	16,079,820	21,680,120		
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A	ガレリアは森のホールと風のホールの間にあり、来館者が多く目にする場所。平成29年度の実績をもとに数値設定。(平成28年度以前は集計の記録なし)							
B	平成29年度は、改修による休館期間があったため、来場者数が減少している。施設改修後の来場者数の回復を目指す。							
C	使用料金の高い商用利用よりも文化芸術目的での利用を優先しており、公用利用の増加により使用料収入は抑制されているが、稼働率の向上により収入の増加を目指す。							

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市が中大規模劇場の整備をしたことにより、小規模の公演の開催の需要が、当市に集中している。29年度に文化芸術マスタープランで、パブリックスペース活用事業が明記。パブリックスペース(ビュッフェカウンター、ガレリア、アトリウム、北テラス、ラウンジ等)の活用を図る。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 月平均来場者数は、目標数値を上回る実績を重ねてきたが、改修による休館期間があったため、平成29年度の来場者数が落ち込んでいる。再開後は、来場者数の回復は勿論のこと、ホール事業の無い時間帯においても、パブリックスペースに来場があるような賑わいのある環境づくりを目指したい。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 劇場の利用が飽和状態になっている一方で、劇場公演以外でのイベント開催や利用を模索していく必要がある。パブリックスペースは文化の家条例による料金設定がなく、ガレリア等の一般貸出許可は、森のホール、風のホール、展示室の三施設との同時利用に限っている。現在は、文化の家、市役所の事業が中心。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 行政や地域団体との連携により活用を図る。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 10年後までに地域団体との連携によって、活用できる事業を行いたい。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		文化の家事業									
番号	①	事務事業名	文化の家事務事業	款	9	項	4	目	5	大事業	3	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度			平成10年			終了（予定）年度			—			

1. 事務事業の目的

対象・手段	（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか） 市民が芸術に親しむ機会や環境を整備するための事務費が中心。特に、情報事業と育成事業を実践するための経費。 パブリックスペースを整備し、雑誌の購入、他館の公演チラシの設置等により、市民等に対する情報の発信の場とする。
意図	（対象をどのような状態にしたいか） 文化芸術マスタープランに基づき、市民が芸術に親しむ機会や環境を整備して、心豊かな生活及び活力ある地域社会の実現に寄与したい。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		9,734	8,442	18,060	23,247
		決算		9,208	8,124	17,699	
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
① 創造スタッフ委託						3,850	千円
② 印刷製本費						871	千円
③ 消耗品費						779	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
月平均来場者数	人	目標	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
		実績	42,270	43,762	41,973	38,209	
		目標					
		実績					
＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞							
雑誌28種類や他館の公演チラシ等を情報ラウンジに設置している。平成29年度は改修工事を機に、机、椅子等の配置を見直し、利用しやすい環境を整備した。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

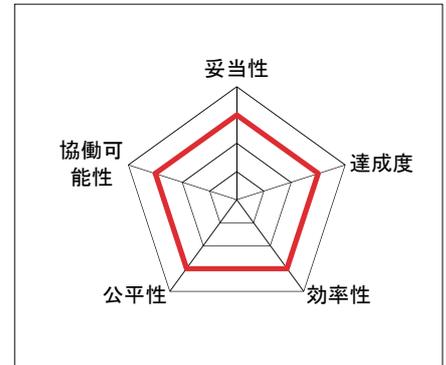
（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など） 夜間に利用できる公共施設が少ないことから情報ラウンジの需要は高い。平成24年からau、平成25年からソフトバンクのWi-Fiの設置することで、利用者の調査・研究等を補助している。

5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞
※新規行政評価対象
（何をどのような状態に改善したのか） 個人利用のためのカウンター席の導入。展示物掲示のためのレーンを設置。これまで利用を禁止していた電源コンセントを利用者に開放。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

（活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど） ・情報ラウンジが市民の居場所の提供になる。打ち合わせをする市民等、談笑する市民、静かに読書や勉強する市民、いずれにも利用を限定せず、居場所を認めている。

【ウイークポイント】

（活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど） 情報ラウンジが2階にあり、職員の目が行き届かず雑誌の盗難があること。不特定多数の様々な目的の市民等の間でトラブルが起きること。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

（改善の方法、今後の具体的展開など） 文化の家の事業や活動情報を収集・整理して、市民へきめ細やかに情報を提供する。また、市内から全国に至るさまざまな文化情報の提供を図る。
--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		文化の家事業									
番号	②	事務事業名	文化の家管理事業	款	9	項	4	目	5	大事業	3	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成10年	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	利用者に安全で快適な空間を提供するために、光熱水費、各種点検委託費、修繕費等を計上する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	利用者に安全で快適な空間を提供する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算	—	223,239	189,554	188,453	196,571
		決算	—	197,724	179,896	178,963	—
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
① 施設管理業務委託						76,544	千円
② 舞台管理業務委託						25,326	千円
③ 舞台関係保守点検委託						9,936	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
ガレリア活用日数	日	目標	—	—	—	20	25
		実績	—	—	—	25	—
		目標					
		実績					
＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞							
・施設管理業者が各種点検、貸館の申請手続やチケット販売の受付を行っている。舞台管理業者が舞台保守点検、舞台監督、舞台音響及び舞台照明業務を行っている。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

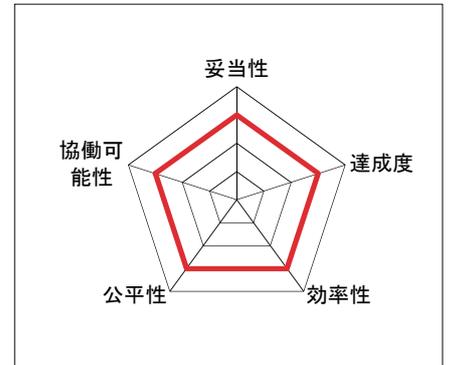
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
・人件費の削減、事務の効率化を目指し、業務体制を見直した。職員が行っていた貸館の申請やチケット販売が、H29から事務室内からエントランス部に移動し、施設管理業者が行っている。

5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞
※新規行政評価対象
(何をどのような状態に改善したのか)
利用者等の便宜を図り、エントランス部に総合受付を設置。総合受付で、施設やチケット等の予約、支払を行えるようにした。職員の勤務体系を見直し、施設管理業務の一部を施設管理業者及び舞台管理業者に委託した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
・施設管理は業務が多様で、施設機械全般に専門的な知識を持った職員を配置。
・舞台設備は多様で高度な機能を備えており、舞台技術に専門的な知識を持った職員を配置。

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)

・施設管理及び舞台管理を委託する一方で、施設等に関する専門的知識を有する職員の育成がなされていない。
--

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
施設機械が経年劣化により故障する頻度が増え、今後修繕費は増加する見込み。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		文化の家事業									
番号	③	事務事業名	文化の家整備事業	款	9	項	4	目	5	大事業	3	中事業	3
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成21年	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	利用者に安全で快適な空間を提供するため、施設の改修事業、整備事業について検討し、必要に応じて実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	利用者に安全で快適な空間を提供する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		0	451,360	519,700	0
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>				2,194	66,978	788,491	
① 大規模改修工事						779,419	千円
② 大規模改修工事監理委託						5,994	千円
③ エントランス整備事業実施設計委託						3,078	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
なし		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
平成29年度に大規模改修事業を実施した。主な改修内容は、ホールの機材の更新、駐車場の整備、需要に合わせたアトリビング施設の改修。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

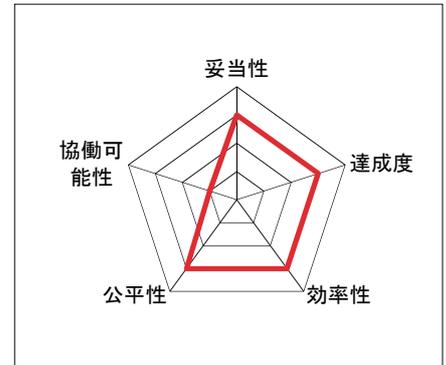
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
開館から20年余りが経ち、設備の老朽化に伴い、大規模改修工事にて設備の一部は更新を行った。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
※新規行政評価対象
(何をどのような状態に改善したのか)
森のホールは舞台床研磨再塗装し、車いす席を増設、ホール内に手すり設置した。また、風のホールも舞台床研磨再塗装し、車いす席を増設した。光のホールは舞台幅を1.9m拡張した。情報ラウンジはお客様から席を増やしてほしい要望によりカウンターを設置した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	1



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
 芝生駐車場は、以前は枕木が腐って、路面が凹凸し水たまりが目立ったが、インターロッキングにすることにより解消する。舞踊室や音楽室の利用が多いことから、前面に鏡のある多目的室や小音楽室を設置し、多くの方が利用している。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
 特定天井となる施設のため、最新の基準に合わせ改修の必要があるが、市財政事情により、優先順位を精査することから、実施を見送った。大規模改修後も個別に修繕が必要な箇所に対処する必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
 平成30年度予算措置なし
 森・風のホールやギャラリーは特定天井に該当し、大規模な改修工事が必要である。